

よりよく生きる

【悪口を受け取らない話】



あるところに、ある人が多くの人々から尊敬される姿を見て、妬んでいる人がいました。

「どうして、あんな男が皆から尊敬されているんだ。ええい！腹が立つ！」
そこで男は、ある人に対して罵声を浴びせかけてやろうと思いました。

「あいつめ。俺に悪口を言われたら、きっと汚い言葉で言い返してくるに違いない。皆がその様子を見たら、化けの皮が剥がれたあいつの人気なんて、あっという間に地に落ちるはずだ。」

そして、その日がやってきました。男は、ある人の前に立ちはだかり、聞くに堪えない侮辱の言葉を投げ続けます。ある人は、ただじっと黙って、その男の言葉を聞いていました。憤慨したのは、その近くにいた友達たちです。友達は、ある人に次のように言いました。

「あの男の言葉は、事実無根だ！」

「あの男に、あのようには侮辱されてもよいのですか！」

それでもある人は、ただの一言も言い返すことなく、じっと黙って、その男の悪口を聞いていたのです。さて、その男はというと、一方的に悪口を言い続けて疲れたのか、次第に元気がなくなりました。どんなに酷い言葉である人を侮辱しても、ある人はただの一言も言い返しません。なんだか虚しくなってしまう、とうとうその場にへたりこんでしまいました。その様子を見て、ある人は、ようやく口を開きました。そして静かに、男に尋ねられたのです。

「もし他人に、贈り物をしたとして、その相手が受け取らなかったとき、その贈り物はいったい誰のものだろうか？」

こう尋ねられた男は、いろいろをぶつけるようにして答えました。

「そりゃあ言うまでもない。相手が受け取らなかったのだから、贈ろうとした者のものだろう。分かりきったことを聞くな。」

男はそう答えてから、「あっ」と気付きました。

ある人は、静かにお話を続けました。

「そうだよ。今、あなたは私のことを酷く罵った。でも私は、その罵りを少しも受け取らなかった。だからあなたが言ったことは全て、あなたが受け取ることになるんだよ。」

他人に向かって発する悪口は、最終的には自分に返ってくるということなのかもしれません。私たちも、悪口を言わない人間性を育てていきたいものですね。